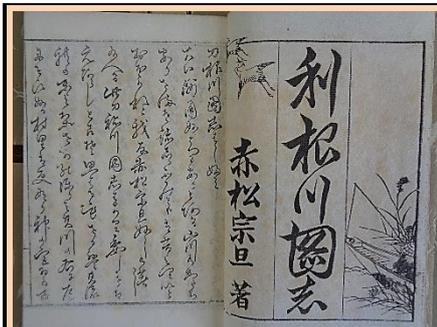


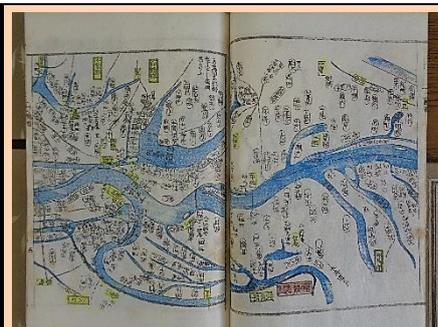
令和2年度
印西市民アカデミーだより
 ぶらす
 第2号

印西を深く知りたいなら「利根川図志」を読むべし！！

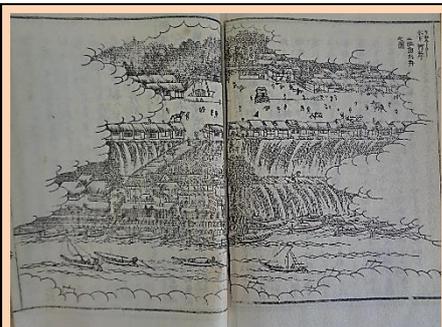
著者の赤松宗旦(あかまつ そうたん)は、下総国相馬郡布川村(現在の茨城県北相馬郡利根町布川)の医師である。母は、印西市吉高、妻は印西市大森の出身である。中央公民館から見える利根川対岸の街が布川である。この本は、江戸時代末期に書かれ、利根川中・下流域、渡良瀬川合流地点(茨城県古河市)から太平洋河口(千葉県銚子市)までの広い流域を対象にし、各地の名所、旧跡、名産品、風土、風習などを、多数の挿絵を交えて紹介している。全六巻で構成されており、第三巻と第四巻に印西に関することが書かれている。現代語訳も発行されているので是非読んでいただきたい。また、利根町には、赤松宗旦の生家を復元した「赤松宗旦旧居跡」があり、コロナ禍が去ったら訪ねてみてください。(18.2cm×25.8cm)



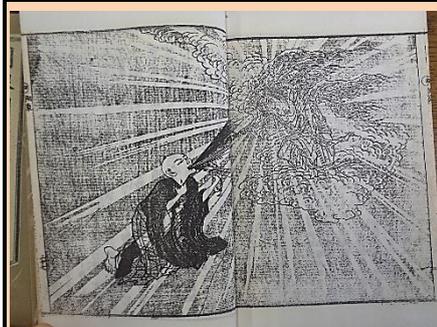
☆第一巻の表紙をめくると…
 毛筆で書かれているため本書を読むことは大変難しくて…。



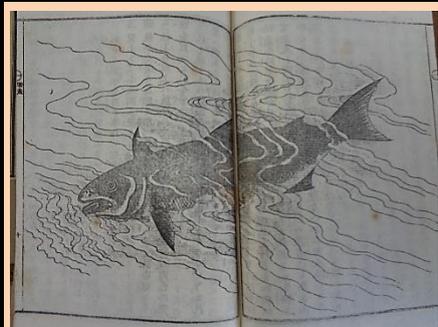
☆利根川図(木下・布川周辺)
 当時の手賀沼・利根川周辺の地名が詳しく載っています。



☆木下河岸(鳥瞰図)
 江戸からの三社詣の客で大いに賑わった木下河岸の様子。



☆宝泉院の宝剣様
 慈覚大師が宝剣で疫病降伏の秘法を修し祈念したところ…。



☆鮭魚(動物画)
 このあたりで獲れるサケは、ちょうど塩気が抜けて美味しく…。



☆カッパ(動物画)
 カッパという物本草綱目の水虎がいて…。